

「太平洋高水温情報」の発行

○はじめに

北海道沖太平洋は「亜寒帯」に区分され、寒冷な水運ぶ親潮が作り出す親潮前線の北側にあり、通年を通して寒冷な海域です（図1）。

例年冬季から春季にかけて、寒冷な親潮が千島列島沖や道東沖から南下して道南沖太平洋までを冷水で覆い尽くします。

道東から道南太平洋沿岸部では、「沿岸親潮」と呼ばれる2℃以下の寒冷な水運ぶ流れが、十勝沿岸から日高湾に至る沿岸域を春季に寒冷な状態にします。

この様に寒冷な環境にある北海道沖太平洋で、2015年夏から南の黒潮由来の暖水塊が道東沖を広く覆い、それが持続しています。例年は寒冷な水が占める冬季から春季に今年は暖水が広く分布していました。

この海況の変化を受けて、中央水産試験場資源管理部海洋環境グループでは、偶数月に実施している定期海洋観測の結果を用いて、今年度から別途関係機関向けに太平洋の海況を解説した「太平洋高水温情報」を発行しました。

○道東沖暖水塊について

道東沖の暖水塊は、これまで幾度となく観測されており、数年に亘り維持されることが知られています。南の暖水渦から切り離された道東沖暖水塊は冷やされて規模を縮小するか、もしくは北東に移動して道東沖から消滅していきます。これが道東沖暖水塊のたどる末路なのですが、今回の暖水塊は一味違います。道東沖暖水塊の南にある三陸沖暖水渦が2010年からずっと維持されていて、そこから道東沖に暖水が供給されています。

そのため、冷たい親潮が阻まれ、北海道沖太平洋が暖水塊に覆われる事態となっています。親潮の冷たい水と南からの暖水が入り替わった海域は、平年値に比べ暖かい状況となります（図2 北海道太平洋沖の赤い部分）。

○太平洋高水温情報

今年6月に発行した高水温情報第一号を以下に示します。得られた海況変化をより見やすく・判りやす

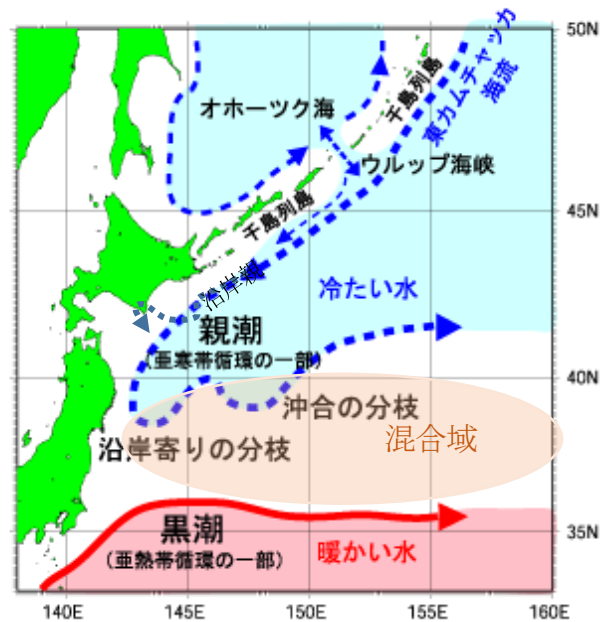


図1 親潮の模式図（気象庁ホームページより）
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/hakodate/knowledge/oyashio.html> に沿岸親潮と混合域を追記。

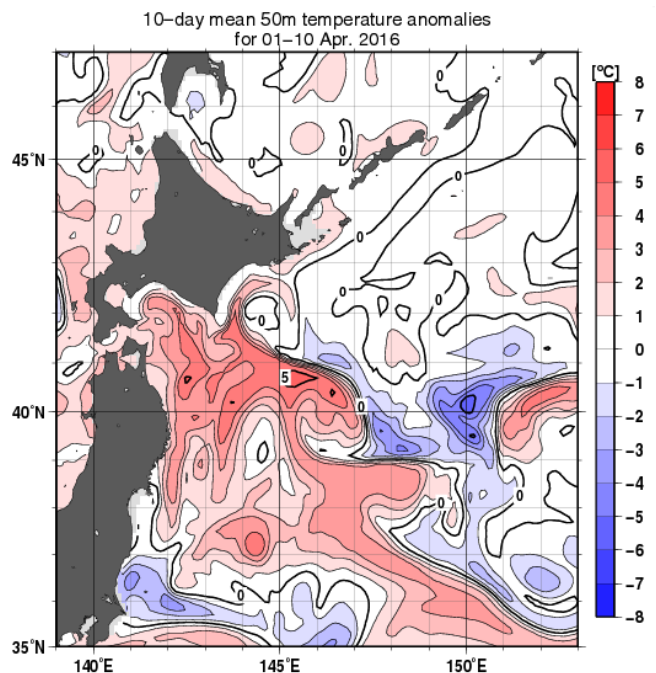
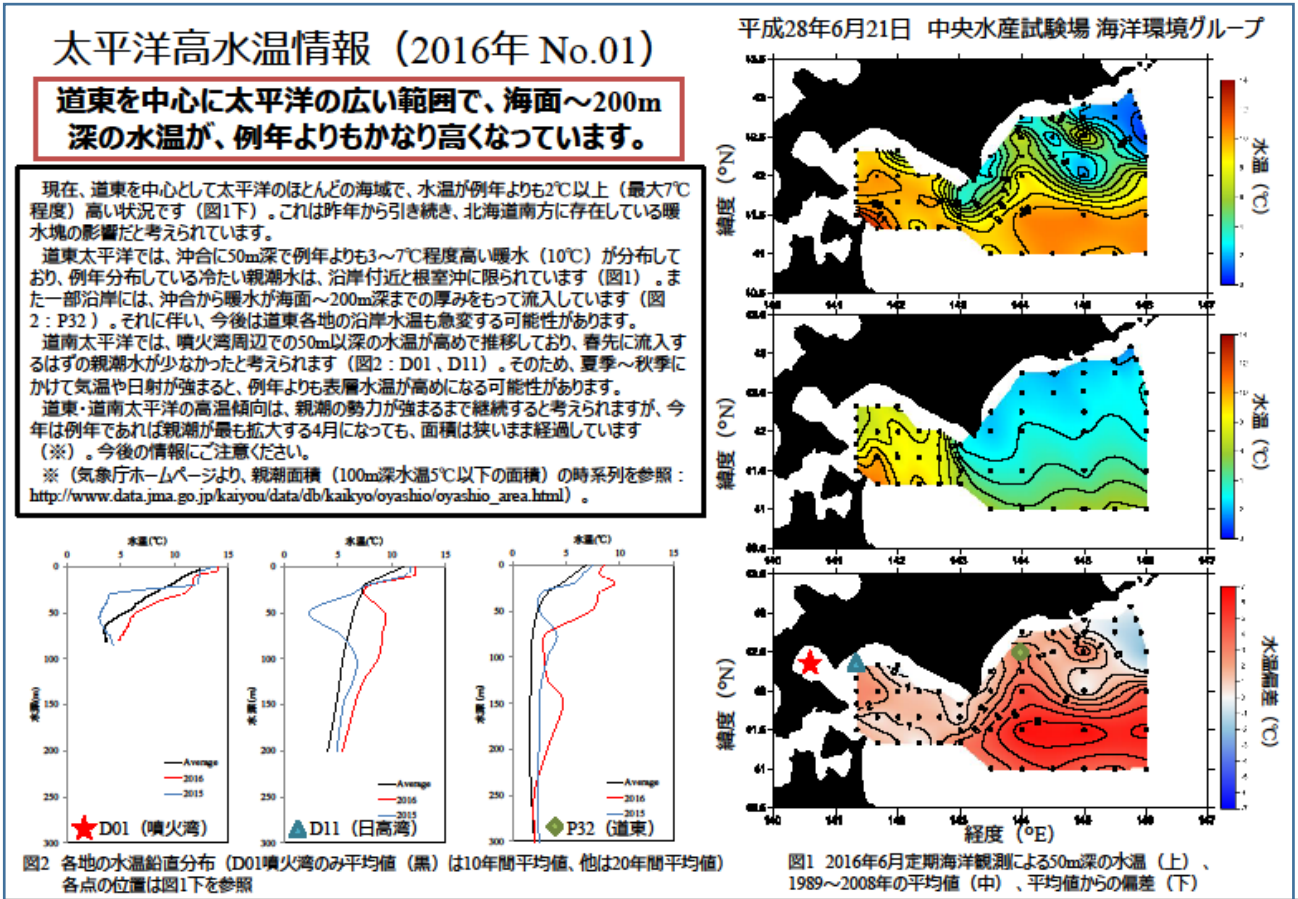


図2 2016年4月上旬、水深50mの水温偏差平面分布図（気象庁ホームページより）
http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index_sub.html

く伝える事を目的として、広く関係機関に配布しています。



○モニタリングの必要性（環境変化の把握）

道総研水産研究本部は図3に示すように全道を取り巻く観測網を整備し、水産試験場の所属する試験調査船（北洋丸、北辰丸、金星丸）により偶数月に海洋観測を続けています。定期的なモニタリング無くして環境変化は捉えられません。

海域の物理・化学・生物データは観測を実施するしか得る方法は有りません。得られたデータを過去の資料と比較して、即座に注意喚起できるのも観測網を維持して得られる観測データがあればこそなのです。

今後も特異な海況変化が見られたときは注意喚起のため、得られた情報から現象を解説した資料を素早く発行していきます。

これ以外にも海況変化に対応して「日本海水温情報」や「宗谷暖流情報」などの情報も関係機関に提供しております。また、これまでの観測で蓄えられた貴重な定期海洋観測データについても様々な利用が考えられることから、今後積極的に公開に向けて取り組んでいきます。

